

# 学生の7割以上が大学在籍中に「成長したと思う」 成長実感が最も高いのは理系女子（リケジョ）

—「卒業時満足度調査2015」より—

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長 山口 文洋）が運営する、高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査や社外に向けての情報発信を行う、リクルート進学総研（所長：小林 浩）は、大学生の卒業時満足度に関する調査を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。 ■参考資料： <http://prtmes.jp/a/?f=d10032-20150701-7100.pdf>

## 1. 成長実感とそのきっかけ・・・参考資料P3～4

- 「成長したと思う」は75.5%。「とても成長した」は2割強（21.7%）。
- 成長実感が高いのは、理系女子＞文系女子＞理系男子＞文系男子の順。  
▽「成長したと思う」男子71.1%、女子81.4%と女子の方が10ポイント以上高い。  
▽在籍した学校が入学時に第1志望か、第2志望以下であったかで「成長したと思う」のスコアは7.6ポイントの差がみられるが、第2志望以下でも7割（71.0%）を超えている。
- 成長のきっかけのトップは「卒業論文・制作を仕上げたこと」（50.5%）。  
▽男女でトップは異なる。男子「卒業論文・制作を仕上げたこと」(48.1%)、女子「アルバイトでの人間関係・責任の重さ」(54.1%)。

## 2. 身についた能力とその機会・・・参考資料P5～6

- 大学で身についた能力のトップは「専門分野の知識・技術を理解・習得する力」（41.0%）。次いで「物事を論理的に考える力」「物事をさまざまな視点から考える力」（38.0%）。
- 一方、最も低かった項目は「将来、グローバルに活躍できる力」（5.4%）。  
▽理系男子では「物事を論理的に考える力」、理系女子では「専門分野の知識・技術を理解・習得する力」「専門分野の知識・技術を実際に活かせる力」が他の層に比べ高く、全体を10ポイント以上上回っている。
- 能力が身についた機会を、能力別にランキングすると最も1位が多かったのは『ゼミ・実習・研究』（22項目中16項目）。次いで『授業』（同5項目）、『アルバイト』（同1項目）。  
※身についた能力ごとに、それがどこで身についたかのトップ項目

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「卒業時満足度調査2015」リクルート進学総研調べ”と明記ください。  
リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit-mp.co.jp/support/press\\_inquiry/](https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/)

【リクルート進学総研 WEBサイト】 <http://souken.shingakunet.com/>